

すたんどばいみー基金への寄付のお願い

2002年に「すたんどばいみー」のための「基金」の活動は始まりました。

当時、外国人の子どもたちの支援活動を展開していた「すたんどばいみー」のスタッフ達の多くは高校生でした。彼／彼女らは、自分より年下の子どもたちの支援に取り組みながらも、一方では、自分自身の将来や進路については、大きな不安を抱えてもいたのです。それは大学等進学にかかる学費についてでした。すたんどばいみーの活動のため、スタッフのほぼすべての子どもたちはアルバイトができず、つながりを作るか個人的に頑張るかという二者択一の本人では解決できない深刻な課題を抱え込んでいたのです。そこで、すたんどばいみーを支える日本人が声を掛け合い、寄付と預かり金の二形態で資金を集め、なんとか「基金」の創設にこぎ着けたのです。その後多くのすたんどばいみースタッフ達が基金を利用し、大学進学を果たし、就職してもう返金を終了した者も何人もいます。そして現在では原資740万円を運用し、もう15年が経ちました。

しかし、この間に「奨学金」をめぐる社会の状況は大きく変化しました。

経済格差が広がる中、学費として奨学金を必要とする子どもたちが急増している一方で、その金利の高さによって、就職後も返済のめどが立たない若者たちが増えています。まさしく、経済格差と金融ビジネスの犠牲になっているのが現状です。

すたんどばいみーのスタッフにおいてもこのことは無縁ではありません。今年度は2件、高い利子で借りてしまった外部の奨学金を、「基金」に借り換えるケースがありました。しかし、残念ながら現在の基金で融資できる枠を超えていたことから、その一部しか借り換えが出来ていないのが現実です。

また、この15年の中で大きく変わったことの中に、「すたんどばいみー」のNPO化もあります。昔は高校生だったスタッフ達も、今はもう立派な大人として、他の外国人支援団体とも連携をとりながら、ますます活動の範囲を広げています。こうした状況が進む中、いつまでも「日本人が外国人の子どもたちに貸し与える基金」という構図を続けるわけにはいきません。そのため、Ed.ベンチャーからすたんどばいみーに「基金」のすべても譲与し、「NPO 法人外国人支援ネットワーク すたんどばいみー」みずからが基金を運用していくことを決定してきています。しかし、ここで問題になるのが、「預かり金はNPO間で譲渡しにくい」という問題です。そのため、今までの預かり金については、寄付に変更していただくか、返金し、今後については寄付による原資の確保を進めていかなければならなくなっております。

こうした状況により、現在基金の原資は不足しております。ここまで何人も外国人の子どもたちの就学の支えとなり、そして現在も多くの子どもたちがこの基金を必要としている以上、なんとか原資を増やし、子どもたちの期待に応えなければなりません。

「すたんどばいみー基金」への寄付を、今こそ切に願う次第です。

2017年3月

NPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

すたんどばいみー基金担当

